

令和6年度 第2回宇治市健康づくり・食育推進協議会 会議録

日 時 令和6年7月30日（火）14時00分～16時00分

会 場 うじ安心館 3Fホール

参加者 協議会委員：近藤委員（会長）、福田委員（副会長）、石原委員、中村委員、佐久間委員、桂委員、西本委員、中西委員、村下委員、井上委員、坂本委員、切明委員、日野委員、山本委員

その他出席：京都府山城北保健所 神原

傍 聴 者：報道関係1名

事 務 局：宇治市健康づくり推進課、保健推進課

- 次 第
1. 開会
 2. 報告事項
 - 1) 宇治市健康づくり・食育推進計画（第2次）初案（案）について
 3. グループワーク
 4. 閉会

【会議内容】

1. 開会

2. 報告事項

- 1) 宇治市健康づくり・食育推進計画（第2次）初案（案）について

報告者：事務局（健康づくり推進課）

■資料3、資料4、資料5に基づき報告

○質疑・応答

委員

■12 ページ（資料3）の食育について、急須で淹れたお茶を飲むことを打ち出すのならば、急須で淹れたお茶の利点を記載する必要がある。

事務局

■計画の中のコラムとして掲載するかどうかなど、検討させていただきたい。

委員

■なぜ宇治市ではがんによる死亡者が多いのか。8月1日の宇治市政だよりには女性のがんが突出して多いようなデータが出ていたが、その点をどのように考えるのか。単純に考えると高齢者のがん

による死亡率は高いと考えられるが、がんという病気をどう捉えるかにも関わってくる。

事務局

- 実態として、女性のがんの増加が特徴的である。京都府内でなぜ宇治市が多いかまでの分析はしきれていないが、がん検診の受診率が低いことも関係しているかもしれないので、受診率向上には今年度から積極的に取り組んでいる。

委員

- 12 ページ（資料3）の「週3日以上、共食はしている人の増加」の意味を教えてください。

事務局

- 市民アンケートの中で、あなたは週3回以上家族または友人と一緒に食事をするか、という設問があり、最終評価では増加している。週5～6日など、回数が増えても策定時より増加している。そのため、このような表現にしている。

委員

- それでは、「週3日以上、共食はしている人の増加」ではなく、「週3日以上、共食をしている人の増加」の誤りである。

会長

- 健康日本21（第三次）では、ロジックモデルを作って、例えばがんが増えている原因として、検診受診率なのか、食事なのか、リスクファクターの部分とさらに健康行動、環境などの、どこに課題があるのかを見える化して、どこに介入するのかを決めている。
- 第三次は、このようなロジックモデルに基づいて立てられている。女性のがんが増えていることについても、知られているリスクファクターの値がどうなのかを追ってみるとよい。国のロジックモデルが各指標について示しているので、それに基づいて推察するとよい。
- 初案の印象だが、健康日本21（第一次）のように総花的で、健康格差への眼差しがほとんどないと感じた。また、どう評価するのかを計画されていない。理念は示されているが、結果を確認できないのではないかと感じた。「こんにちとは笑顔で健やか宇治のまち」はすごく素敵な理念だが、その下の「社会とのつながりの中で生きがいを持ち、健康で心豊かに活躍できるまち」、この姿に向かっていくのかどうなのか、どう評価するのかという計画がほしい。そこを計画することが計画ではないか。具体的には、つながりと生きがい、心豊か、笑顔といったキーワードをどう評価するのかを計画してもらいたい。
- また、第三次では基本方針として地域格差を評価、可能な限りにおいて社会経済状況等による格差も評価することを示されている。これはそんなに難しいことではないので、計画に盛り込んでいただきたい。これは第三次の特徴で、自治体間の格差を減らすように言われている。地区ごとの数値を比較して、特に値の悪い地区はどこなのか、良いところと悪いところの差はどれくらいなのかを見て、そこを底上げする。そして、特にスコアの悪い地区に重点的に支援していくボトムアップなアプローチが第三次の特徴なので、それを踏まえた計画だと実行力のある計画になる。
- 例えば、普及啓発、広報強化が重点施策として掲げられているが、なぜ重点的にしなければならないのか、ロジックが示されておらず、本当に必要なかと疑ってしまう。知識の普及啓発は意識の高い人には効果的だが、健康づくりどころではない生活が大変な人には届かない、格差を広

げるアプローチである。

- 普及啓発するならば、健康インセンティブ事業、特定保健指導や介護予防、地域包括ケアのインセンティブ交付金制度もある。そういったものを使い、健康づくりを自分だけでは上手くやれない人にアプローチして、インセンティブ交付金を活用し、そのお金でまた支援をする。さらに、インセンティブ交付金指標を使えば、アセスメントもできるようになるので、介入とアセスメントを一緒にするようなアプローチを国が作っているの、活用し、そういった所に集中してはどうか。

事務局

- 重点施策に啓発広報ということで、がん検診の受診率がかなり低いことが大きな課題となっており、宇治市政だより 8 月 1 日号でもがん検診を大きく取り上げている。これは広報強化の一環として行っており、宇治市として啓発広報を重点施策にしたいと考えている。健康格差の課題については、無関心層にも周知啓発を行い、地域などで誰一人取り残すことなくということで進めていきたいと考えている。

事務局

- 経済状況を地域ごとに見ることは行政としては難しい気がするが、数値というのは経済状況以外ということではどうか。

会長

- 例えば個人の所得や介護保険なら保険料区分がある。あとは、保険種別、国の会議では、所得は反発が大きいのではないかと、保険種別毎の差、社保や国保や医療扶助、こういった区別毎に出してみても大分格差がある。使えるデータは、それこそオール宇治で、他の課が持っているデータを使い健康の分布を見ていくことは健康づくり担当課がやるべきことである。

事務局

- 九州大学の協力を得て、国民健康保険や後期高齢者医療保険、介護保険のデータを統合した分析をしており、地域ごとの健康課題についてはこれまでも分析している。そこに所得情報、介護保険料のデータもあるので、統合できるかは検討させていただく。

会長

- 他には、地域の地区毎の経済状況指標、四季報などが使っている失業率や平均所得や、所得は市全体でしか出ないかもしれないが、そういった公表されているデータを使って地区単位の豊かさの差で見るのもよいのではないかと。

事務局

- 必要な視点だと思うが、地域の方に伝えることはすごく難しい。事実としてあり、職員も感じており、底上げしていく必要はあるのだが、それをどのように住民と共有するのが難しい。地域によってはマイナスイメージを持たれてしまう恐れがある。
- 健康データ分析はありとあらゆるものを活用しながら、地域毎の健康については把握していきたいと思っているので、そこで何ができるのか。誰も取り残さないことを中心に、国も参考にしながら入れさせていただきたい。

会長

- やってみると案外大丈夫である。静岡県はここ 10 数年かけて、健康の分布をマッピングしている。すると、明らかな格差が見えるようになった。それをデータで見せて、しっかりコミットして、一緒に解決していくというのがアカウンタビリティの最初のポイントである。出せるデータがあるのに隠していることも問題で、少しずつでも一緒にデータを出して、市民と一緒に対策していくことは必要だと思う。お金の情報が出しづらかったら、健康の情報から出してもらってはどうか。
- イギリスではすごく小さい単位でも全国のデータを出して、そのデータに応じて地域振興の交付金を決めている。実際地価も下がるが、自治体はそこをしっかりとサポートしていく。データを見せて、説明していかないと施策が進まないのも、やっているのだと思う。上手くやっている事例を参考にしつつ、データが見える化した後に共有して、市民と一緒にPDCAを回していくということが重点施策として重要である。見える化だけに留めておかない方がよい。
- 社会環境の質の向上が土台となって、その上に生活習慣の改善が乗っかっている。当然、環境が整わないと健康づくりはできないので、ここが土台となっているというフレームが分かるようにできるとよい。例えば、運動しやすい環境づくりを行う、運動したくなるアプリなどを作ってみる、などができるとうい。

委員

- 資料4のライフコースの子どもに①乳幼児期からとあるが、乳幼児期の前に胎児期は入れなくてもよいのか。

事務局

- ご意見として、検討させていただく。

会長

- 胎児期からの健康づくりロジックをたどると様々な影響、効果がある。胎児期の赤ちゃんのストレスを減らすことはお母さんの健康を守ることになる。子宮にしっかり動脈血が送られるように、ストレスをなくしていくということ。タバコを吸いたくなるような状況を減らしてあげる。家庭の環境にも課題のある家には配慮することをしていくと、子どもも生まれた後に健康になるし、家庭も子育ての中でしっかり妊娠中からサポートを得ながら、この地で赤ちゃんを育てられるという、街に対しての信頼も生まれる。そうすると出生率も上がるかもしれない。まちづくりの一環として胎児期からしっかり子ども支えていく、家族を支えていくというのは色々な波及効果があって大事だと思う。そういうのも、さっき言ったロジックモデルを作っておくと見えてくると思う。

委員

- 普及啓発が重点施策に挙がっていて、それがどうなのかというご意見があったが、宇治市政だより8月1日号の表紙で「受けていないのは私だけ」というタイトルに衝撃を受けた。見ている人と見えていない人の差はあるかもしれないが、まず私たちが知ることが次につながるの、どうやって広報していくかが重要ではないか。その広報の方法が重要とおっしゃっていると感じたので、もう少し補足をお願いしたい。
- 宇治市健康づくり・食育アライアンスでも様々な取組をしているが、色々な地域でつながりづくりを計画していきたいと考えている。参加してくれる人を増やす、そこに来てくださった方が健康意識を高めて、つながりづくりの次の一歩につながるよう計画していきたい。それは数字で表せると

思うので、その評価や実施の方法についてのアドバイスがあればお願いしたい。

会長

■それこそロジックで、普及啓発は便利に使われているが、普及啓発して、がんは検診で見つかる、検診を受けないと危ないと市民に伝えたら、市民は合理的に判断して検診を受けてがんは予防されるという勝手な仮定を置いている。研究で判明しているが、理解した後に行動する人は3割程度しかいない。他の7割は知っていてもやらない。

■がん検診でいえば、何がゴールかと言えば検診を受け続けることである。私たちはマーケティングと呼んでいるが、がん検診というサービスを届けるべき人に届けるための仕組みづくりをする。東京都八王子市ではソーシャルインパクトボントを使って、大腸がん検診を受けたいという仕組みを提案して、社会実験を行い、受診率が向上した。受診勧奨の仕方を企業の力を借りて行った事例である。そういう環境づくり、連携をしていく、そしてお金も回していくような仕組みづくりをする。単に知識普及ではなく、ゴールを見据えて、ゴール達成のためのマーケティングをしていくことが重点計画の目指したい意図だと考えている。

委員

■大きなイベントをすることも大事だと思うが、地域にコミットしていくことでつながりづくりを生み出していき、活性化して、人とのつながりが生まれ、その地域の文化力や地域力が上がっていく。それにより、健康や幸せの価値感を上げていく。そういうことを進めていく際に、行政の事業なので評価が必要であるため、色々な地域でそういったことを実施していることも評価になるのか。

会長

■よくやるのが、ロジックモデルを組むことである。アウトカムとプロセスを分け、みんなのつながりが増える、笑顔が増える、計画の理念が達成されているかどうかアウトカムである。うーちゃフェスタを開催し、その参加率が上がるというのはプロセスの一つである。そういう風にロジックモデルを組み、豊かなつながりと笑顔を増やす、そのための手段として、うーちゃフェスタや他の色々な活動がある。その中の重要なものについて、例えば参加率を何人にするとか目標値を立て、その達成を目指すことが、最終アウトカムを達成するために大事なことで理解され、それを目標に定める。そういう風にしてやっていくといいのではないかな。

事務局

■宇治市政だより8月1日号に関連して、ポスターを作成して、行政としては今までにないような出し方と思っている。広報強化の考えの一つとして、いろんな観点でどのように受けていただけるのか、どう訴えかけるかを中心に考える中で、いくつか候補がある中でこの広報をさせていただいた。宇治市としても、地域の取組にも可能な限り入って行って、活動を進めていきたいと考えている。

会長

■せっかく工夫されているので、普及啓発という使い古された言葉は使用せず、そこを攻めていくアプローチの方が共感を得られるのではないかな。

事務局

■先生が言われたことを進めていくことが重要である。がん検診はそもそも知らない人が多い実態があるので、まずは知ってもらい、受けてもらうために工夫していくことが重要である。その意味合

いを込めて、普及啓発を重点施策として挙げている。見える化だけではなく、どのように使っていくかが重要と考えているので、計画へどう盛り込むかは検討させていただく。

会長

- 事務局の意図は重々理解しているつもりだが、その気持ちがしっかり市民に伝わる表現をしていただけの計画になればと思っている。

3. グループワーク

(グループワークテーマ)

- メインテーマ「市民が健康になるためにどのような取り組みが必要か」

- サブテーマ

【Aグループ】生涯を通じた健康づくり「子どもたちの健康を守るためにできること」

【Bグループ】社会全体で健康を支えるつながりづくり「壮年期（働き盛り世代）が自分らしく健康的に過ごしてもらうためにできること」※心と体について

【Cグループ】社会全体で健康を支えるつながりづくり「壮年期（働き盛り世代）が自分らしく健康的に過ごしてもらうためにできること」※食環境について

(グループワーク発表)

Aグループ

- しなければならないことは、子育て世代への食事の支援・啓発である。また、朝食の欠食が増えているので、それに対する支援をしていこうということが大きなポイントである。
- お茶について、栄養を伝えていくことが必要ではないか。急須で淹れたお茶の味やペットボトルのお茶は何が違うのかなどを勉強していけば、お茶を淹れることは必要なことであり、将来楽しみになってくる人も出てくると思うので、やっていきたいと考えた。
- 小学校ではタブレットを1人1台貸し出しているの、健康ゲームという形で興味を刺激しながら、ご飯を食べたら何点、これを食べたら何点、とゲーム感覚で食事を活かしてほしい。
- 外遊びは難しいので、空いている場所、例えば小学校や公民館があるが、制限が厳しいが自由に使えるよう、遊び場を増やしていくことが大事である。
- 食品ロスに漠然と意識はしていても、実際には食べ残しがあると思うので、自ら選択して食べていく必要があることなどを学ぶ必要がある。
- しなければならないこととして、インターネットを活用して、共有できる知識を学ぶオンライン授業など、学びの場ができるとよい。

Bグループ

- 「脱！健康」がキーワードになった。健康と言われると嫌になって、やる気もなくなる。「元気ですか？」だと手を挙げるが、「健康ですか？」だと手を挙げないので、「脱！健康」となった。
- 楽しむことが大事なので、自然と身体が動く、踊る、花火大会にみんなで行くなど、とにかく楽し

いことをすることが大事である。そして、楽しんだら疲れてぐっすり眠れる、これこそが大事である。

- オキシトシンという利他ホルモンを上げていくための仕掛けが必要と考えた。そこで、宇治といえどお茶で、みんなと一緒にお茶を飲めばオキシトシンが上がる。それによって、急須でお茶を飲むという文化も大切にできるのではないかな。
- 京都府では食の健康づくり応援店の取組があるが、それをもっと広めていく活動もしたい。お店に入ったら自然と健康になれるよう、入った瞬間に野菜から摂っていかないといけない、ご飯の量は少なめにしているなど、お店に入ったら自然と健康になれる仕組みがあるとよい。
- 最後に疲れたら温泉ということで、宇治市にも温泉があるので、「脱！健康」をテーマにみんなで健康づくりができればよい。

C グループ

- まず宇治市の食の資源を洗い出した。宇治市はスーパーが多く、飲食店も多い。総合病院もある。栄養士を養成してくれる学校もあれば、若葉の会もある。農作物も非常に多く、ポテンシャルが高い。
- できることは、健康定食ができたり、栄養士監修メニューを提供したり、バランスがよい食事のポスターなどを貼っていただくなどがある。お店に提供してもらっても、それをチョイスしてもらうことが大変なので、食べたポイントが付くなどを考える必要がある。
- JAの女性部では健康なお弁当を作っているのだから、購入できる機会が増えるとよい。
- したいことは、夫婦で参加できる食のイベントや職場で調理実習ができるとよい。食のイベントには大人向けが少ないので、働き盛り世代を対象にできるとよい。また、自炊をもっとしていただく方法がないかという意見が出た。
- こういったことを進めていくには、産官学と地域が一体化する必要がある、大きな医療機関もあるので、そういったところでマルシェなどを開催して、健康のイベントを出して、1つの大きなものにしていただければよい。
- ペットボトルのお茶は手頃で買いやすいのでお茶には触れていただいているが、もう1つハードルを越えて、急須で淹れたお茶を広めていきたい。方向性は出ていないが、将来的にはしていく必要がある。

グループワーク総括

副会長

- 宇治市の魅力を振り返って、資源としてすごくよいものがあると確認した。医療機関からスーパー、外食店など充実していて、適度な都会感があって、地元の野菜が身近にあって、協力的な農家も多く、自然もたくさんあるので、運動できるコースも作れそうだなと思った。イベントがあるのかなりの人が参加して、食のイベントも積極的に行われているなど、よい資源が多くあると感じた。
- 野菜をたくさん食べなければいけない、今の食生活を変えなければならぬとなると堅苦しく感じるが、そうではなく、野菜が美味しいから食べる、健康によいからではなく自然と健康に向かって

行けるとよい。グループワークではよいご意見がたくさん出るので、よい機会だったと思う。

会長

- 「脱！健康」という意見が出たが、健康リテラシーという言葉は嫌な響きと言われることがあった。大の大人が、リテラシーがないから健康でないと言われているように感じる。元々、健康的に過ごせる状態で、健康的に過ごしてみたら身体の調子がよい、だから続けると体験できるとよい。このような体験を自然にできるよう、健康という言葉は使わずにやっていけることが、「脱！健康」ではないかと思う。
- お店と連携することがそういうアプローチになるのではないか。お店ですごく健康的な食事だと声高に言うのではなく、楽しい食事をして、結果として身体の調子が良くなったとなると、長生きできる食事とよく言われると別で気づけるような環境づくりが自治体として進めるべきである。そういったアライアンス、お店を一緒に作っていければよい。

4. 閉会

事務局 健康長寿部長

- 本日は計画の初案についてご説明し、ご意見をいただき、グループワークにて熱心にご議論いただいた。これまで地域や事業者、社会の中で健康づくりを進めていくことが大事ということで、「脱！健康」は健康を超えたところにあるのかなと受け止めた。誰一人取り残すことなく健康づくりを推進していきたい。年内の計画策定に向けて、引き続き検討して、8月には議会で初案を説明していきたい。また、パブリックコメントについても多くの市民の方からご意見をいただきたいので、ご協力をお願いしたい。
- 次回は最終案としてご説明をする機会を設けたい。委員の皆様方には引き続き、この計画、宇治市政のご理解ご協力を賜りますことをお願い申し上げまして、閉会の挨拶とさせていただきます。

事務局

- 初案のパブリックコメントについて、実施についてはご案内をさせていただく。
- 次回協議会は令和6年10月中旬頃を予定している。最終案をご報告し、ご意見をいただく予定である。

以上

グループワーク記録 【Aグループ】

●生涯を通じた健康づくり「子どもたちの健康を守るためにできること」

宇治市の課題
【電子メディアによる影響】 ・小児に与える影響が大きく、依存性が強い ・電子メディアの使用時間が長いほど、夜寝つきが悪く朝機嫌が悪くなる ・保護者自身が電子メディアの使用時間が長いと子どもにも影響している 【外遊びの減少】 ・地球温暖化の影響で夏場は暑く外遊びができない、冬場もエアコン環境に慣れてしまっている ・共働きが多く子どもと一緒に外に遊びに出かけてあげることができない ・昔に比べて安心して遊べる環境が減少（ボール遊び禁止など） 【朝食を食べていない】 ・今年度実施された全国学力・学習調査の結果では、朝食をとっていない児童が増加
課題に対しての宇治市の強み（既にある取り組みや社会資源）
・小学校では一人1台タブレットが支給されて学習に使用 ・宇治市ならではの「宇治茶」がある ・食育の出前事業が多く実施されている
今後必要な取り組み（既存の取り組みや地域資源の活用も可）
・一人1台のタブレット支給があることを利用し、ゲーム感覚で健康行動や電子メディアとの付き合い方を学ぶことができるアプリがあるとよい（朝食を食べるとポイントがもらえるなど） ・共働きが多いため、保育所や学校で朝食を食べることができるような支援 ・宇治市ならではのお茶を通じた食育の普及 ・安心安全に外遊びができる環境づくり（高齢者が多く集まっている公民館などを遊び場に開放） ・まずは家庭で楽しく食事を食べる工夫が必要 ・フードロスの観点で適度な量の買い物や調理を行って食べ残しをなくす ・農作物を育てて食の大切さを学ぶ
取り組みまとめ（Will Can Must）
課題としてあがっていた電子メディアや朝食の欠食に対しての取り組みでは一人1台のタブレット支給があるという強みを生かし、ゲーム感覚で健康知識や電子メディアとの付き合い方を学べるような仕組みづくりや、気候に左右されない安心安全に遊べる場所の環境整備、宇治市ならではのお茶を通じた食育について伝えていかなければならないという意見が出た。

グループワーク記録 【Bグループ】

●社会全体で健康を支えるつながりづくり「壮年期（働き盛り世代）が自分らしく健康的に過ごしてもらうためにできること」（心と体）

宇治市の課題
【働き盛り世代には「忙しい」「疲れた」で活動をしていない人が多い】 ・子どもと一緒に何かできる、同じ趣味の人がいるなどのきっかけづくりがあれば参加しやすい 【世代間で意識に差がある】 ・町内会に入る人が少ない、仕方ないと思う部分ともったいないと思う部分がある ・各世代同士でよりよい話し合いができる場づくりができるとよい 【京都府の中でも宇治市のがん検診の受診率は低い】 ・京都府の市町村で比較しても、宇治市のがん検診の受診率は低い ・働き盛り世代になると、勤め先が市外の人も多いので、もう少し広域で考えてもよい 【どうすれば健康診断を受けてもらえるか】 ・分かってはいるけれど、なかなか受けに行かない 【槇島地区では肥満が多い】 ・槇島地区は飲食店が多いので肥満が多いのではないかな ・健康的な選択をできるよう槇島地区の環境を変えられるとよい 【禁煙には「愛煙家」をキーワードに取り組む】 ・愛煙家の集いという取り組みがあり、その結果、タバコを辞めますという人が出た ・愛煙家登山という、登山して山頂で一服するという取り組みもある ・「タバコ辞めなさい」は散々言われているので、嫌な気持ちになっていると思う 【「健康」という言葉が逆効果】 ・「元気ですか？」と尋ねられると手を挙げるが、「健康ですか？」と尋ねられると手を挙げない ・「健康」という言葉が逆効果になっているかもしれない
課題に対しての宇治市の強み（既にある取り組みや社会資源）
・盆おどりができる環境がある ・市内のマルシェが多くなってきた ・お茶
今後必要な取り組み（既存の取り組みや地域資源の活用も可）
・週1で盆おどりができるよう目指す ・ゆったりした時間を持つことが大事 ・既存のお祭り以外で、お茶をゆっくりと飲める機会を設ける ・動いたらよく眠れるので、動くことと睡眠を絡めることが重要 ・肥満がどうこう言うのではなく、健康になるための環境づくりが大事 ・京都府の食の健康づくり応援店の取組を宇治市でさらに推進していくことが必要 ・自然に健康になれる環境づくりを目指し、「脱！健康」を宣言してはどうか ・温泉を作れるとよい
取り組みまとめ（Will Can Must）
「健康」という言葉を掲げることで、かえって健康になるための行動をしなくなってしまう可能性がある ので、「脱！健康」をキーワードに、普通に過ごすだけで自然に健康になれる宇治市を目指して、環境づ くりを進め、そして楽しんで健康になれることが重要である。

グループワーク記録 【Cグループ】

●社会全体で健康を支えるつながりづくり「壮年期（働き盛り世代）が自分らしく健康的に過ごしてもらうためにできること」（食環境）

宇治市の課題

- ・働き世代の娘夫婦は、朝シリアル等で軽く済ませており、働き世代の朝食内容が気になる。
- ・弁当はよいが外食は悪いというイメージがあるが、そうではないと思う。食に関する指針があればよいのではないか。
- ・楽しく食べることは大切だが、困ったことが起こる前に振り返る機会が大切と感じる。働き世代は休み時間が確保され、食べる時間を確保することが必要だと思う。

課題に対しての宇治市の強み（既にある取り組みや社会資源）

【資源が豊富にある】

- ・医療機関が多い
- ・スーパーが多い
- ・飲食店が多い
- ・ドラッグストアも多い
- ・地域でとれた野菜が買える場所がある
- ・宇治市には駅が多く、駅前には飲食店が多い
- ・ロードサイド飲食店は他地域と比べ少ない
- ・お茶を使った飲食店が多い
- ・地域に茶屋が多く、緑茶にふれあえる
- ・JA 女性部の加工部の弁当が購入可能

【人の充実】

- ・人とのつながりも適度にあり、適度な距離感で保っているように感じる
- ・健康やまちづくりの視点でのアライアンス U-CHA
- ・食生活改善推進員（若葉の会）の地域での食育活動
- ・栄養士養成学校
- ・協力的な農家さんが多い
- ・食に関するイベントが多い、市場でイベントがある
- ・地元の人に参加するイベントがある
- ・アピールする場がある
- ・保育園、小学校で畑づくりを行い、食育活動を行っている
- ・家庭菜園

【自然、地域産物が豊富】

- ・自然があり、散歩コースなど設定できる
- ・地元でとれる野菜がある
- ・畑が身近にある
- ・有名な特産物となる農産物が多い
- ・地域の食材（京野菜）が豊富
- ・中学校でも給食が始まる

今後必要な取り組み（既存の取り組みや地域資源の活用も可）

<Will（したいこと）>

- ・食のイベントは子ども向けが多いため、夫婦、友人、職場で参加するイベント（例えば、料理、ウォーキング、畑など）
- ・働き盛り世代向けの職場で調理実習
- ・食に関する住民主体の活動拠点づくり
- ・スーパーでの健康的な総菜提供
- ・自炊のすすめ（地元の食材を使って）
- ・料理の楽しさを教えた
- ・野菜作りの楽しさ、自分で作った野菜を味わう
- ・地産地消の観点から医療機関や公共機関でマルシェの開催を増やしたい
- ・マルシェで検診ブースを設ける

<Can(できること)>

- ・バランスよい食事の啓発ポスター
- ・健康定食的な外食がとれる場が増える
- ・外食での適塩メニューの提供
- ・JA 女性部の弁当が買える
- ・栄養士さんのメニューを市内飲食店で提供
- ・健康的なメニューを提供している店も食べた人もインセンティブでポイントが付く
- ・子どもが作った野菜を親が食べる、そういう機会を増やし、自分の作った野菜を食べる機会を増やす

<Must（しなければならない）>

- ・産官学の地域のサポート（イベント、検診、地域の紹介）
- ・ペットボトルのお茶は手軽で交流しやすいが急須で飲むお茶の普及にもっと努めたい

取り組みまとめ（Will Can Must）

宇治市はスーパーが多く、飲食店、総合病院、栄養士を養成する学校、若葉の会、農作物も非常に多く、ポテンシャルが高い。

健康定食的な外食をとる場ができたり、栄養士監修メニューを提供したり、バランスがよい食事のポスターなどを貼っていただくなどができるが、今後そのようなメニューをお店で提供してもらっても、それを選ぶために食べたらポイントが付くなどを考える必要がある。

大人向けの食のイベントが少ないため、働き盛り世代を対象に進めていきたい。これを進めるためには産官学と地域が一体化する必要があり、大きな医療機関もあるため、そのようなところでマルシェなどから、健康のイベントを出して、1つの大きなものにしていけばよい。